

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1950480010		
法人名	医療法人景雲会		
事業所名	グループホーム アゼリア		
所在地	甲州市勝沼町菱山中平4300		
自己評価作成日	平成24年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年10月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者一人ひとりが興味を持てる事や、能力を引き出すような事を、クラブ活動やレクリエーション活動として行っており、利用者の意見を聞き、遠足や外食等も楽しんでいます。また、地域交流を心がけ、イベントに参加したり、地域のボランティアの方と一緒に楽しんでいます。特に春のよもぎ饅頭作りや梅漬け、秋の干柿作り等には利用者の経験や知恵を拝借し、毎年おいしい物ができています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

甲府盆地が眺望出来る高台にある事業所である。広い敷地は、農園や四季の草花が自然に生えており、毎日の外気浴には最適な環境となっている。民家が周りにないが、地域の人と一緒に駅や警察署に花を植えたりしている。その時は、手作りの作品をおみやげに持参している。また、入居前の組の行事には組の人が迎えに来ている。農園で作った野菜を使って食事を作ったり、季節毎の生活の営みの提供があったりと今までの生活の継続への支援が来ている。2つのユニットが少し離れているが、同じ敷地内に介護老人保健施設があるのは心強い。おしゃれをしている女性やリビングの新聞・雑誌などから理念にある様に「一人ひとりが個性豊かに過ごす支援」に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームアゼリア

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 本館 )	ユニット名( 新館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念のもと、方針・目標を明確にし、管理者と職員で話し合う機会を設け、地域交流を大切に、積極的に活動している。	左記同様	地域密着型サービスの意義をふまえた理念は事業所の入り口に貼ってある。毎月の業務改善会議では、理念に沿った支援が出来ているかどうか、また、支援の中で方向性を見失った時は基本理念に戻って話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	警察署及び駅前の花の手入れや、交通安全教室に参加する等して、地元の人々との交流を深めている。	左記同様	地域と交流の機会に、アクリルたわしなどの利用者の制作物を持参している。事業所の回りがぶどう畑という立地条件にありながら、地域との関わりを積極的にかつ友好的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員間で話し合いの場は持っているが、実際にはまだそのような機会がないのが現状である。	左記同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の割合で開催しており、実際に取り組んだ内容や、今後の活動等について報告している。それに対して意見交換を行い、そこで得た情報をサービスの向上に活かしている。	左記同様	回りに民家がないので、運営推進委員から地域の行事などの情報を得ている。食事を作る時は、髪の毛をまとめたり、バンダナを使用したらどうかと意見があり、取り入れている。今後お坊さんによる法話の予定もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進会議を行っている事から会議の場以外でも情報やアドバイスを頂き、市町村との連携を図っている。	左記同様	防災マップをもらったり、市の防災計画やインフルエンザについての情報を知らせてもらっている。帰宅願望の強い利用者について相談ののってもらうなどと、日頃から連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしない事を学習し理解している。玄関は、日中センサーを設置し、自由に出入りができるようにしている。また、居室においても昼夜を問わず鍵はかけず、自由に出入りできるようにする等し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	左記同様	外に出て行った時は、制止する事無く、遠くから見守っている。事業所の敷地は、利用者が気持ちを落ち着けるまで歩ける広さと自然がある。身体拘束廃止委員会があり、スピーチロックについては①ゆっくり話す。②言葉の口調を優しくする、を目標としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず、理解・納得して頂けるよう説明し同意を得ている。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対し苦情処理に関する概要を提示している。また、利用者の意見も傾聴し不平等を受け入れ、ケアや運営に反映している。	左記同様	管理者・スタッフ・ケアマネジャーと家族の個人面談を年2回実施し、直接意見を聞いている。利用者のお小遣いについては面会時に知らせ、日常生活の様子はアゼリアだよりを配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で各職員と意見交換をする場を持ち反映させている。	左記同様	フロア別のショートカンファレンスや業務改善会議で意見が出せる。勤務についての希望も出せる。また、物品購入伝票で備品の購入依頼が出来る。少額な備品であればすぐ購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で話し合いの場を持ったり、勉強会等を定期的に実施する中で、職員が向上心を持って働く事ができるよう努めている。	左記同様		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーション及び新人教育の実施。その後、内部研修・外部研修への参加を促し、外部研修受講者は職員への伝達講習を必ず行うようにしている。	左記同様		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、勉強会や交流会を通じて活動し、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。	左記同様		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人と話をする機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に本人と話をする機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は可能な限り対応できるように努めている。	左記同様		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	“共に生きる”“できない事をサポートする”等の視点で毎日支援している。人生経験豊富な利用者から多くの事を学んでいる。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は必ず家族と話をする時間を設け、良い雰囲気を作っている。	左記同様		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や集まりに参加する等して、これまでの生活が途切れてしまわないように支援している。	左記同様	梅干し・ころ柿・白菜漬けなどをボランティアと行う。地区の敬老会や行きつけの美容院に家族の対応で出かけている。入居前の組の行事(お花見・寺の行事・法事など)に組の人の送迎がある。農園での収穫祭(焼き芋)も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支え合う事ができる様に、さりげない声かけや働きかけをしてサポートしている。	左記同様		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人及び家族から相談を受けた場合は必要に応じて対応している。	左記同様		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族と話し合う機会を持つ事により、希望・意向の把握に努めている。	左記同様	日常生活の中で、利用者の思いを掴んでいる。言葉に表せない利用者は様子から判断し、スタッフ間で話し合っって共通意識を持って対応している。化粧したり、おしゃれな利用者も多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族との面談を行い情報収集し、本人の把握に努めている。また、センター方式を活用している。	左記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等を活用して情報を共有し、利用者の現状を把握するよう努めている。	左記同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を第一に考えながら面会の際に、家族の意見や要望を聞いたり、カンファレンスの中で職員が意見を出し合いながら検討し、作成している。	左記同様	本人・家族の意向を聞いて、職員とケアマネジャーと一緒に計画書を作成し、家族の同意を得る。経過記録をスタッフが記入し、2～3ヶ月に1度カンファレンスを行い、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入し、情報の共有を行い、ケアや介護計画に反映している。	左記同様		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族のニーズに合わせ、職員が随時対応している。	左記同様		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署及び警察署、その他民間の協力により、地域で行われているボランティア活動に参加させて頂いている。	左記同様		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医療機関や、近隣の総合病院等と連携をとっており、いつでも相談できる様な体制が確保されている。また、かかりつけ医とも常に連携をとり、適切な医療を受けられる様支援している。	左記同様	入居前のかかりつけ医になっている。受診は原則として家族対応であり、状態報告書を作成して渡している。受診後は内服の変更や検査結果について家族から報告がある。緊急時は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健の看護師に相談する等して支援している。	左記同様		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は面会に行き、家族や病院関係者と情報交換しながら、早期退院に向けて話し合いをしている。	左記同様		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで、そのような体制はとっていなかったが、現在、重度化した場合や、終末期におけるケアを行っていく方向で検討中である。	左記同様	終末期ケアについては、法人全体で研修している。敷地内の事業所の終末期ケアの見学や反省会に参加している職員もいる。医療依存度が高くなった場合は、老人保健施設等の施設もある事を入所時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、普通救命の講習を受け、定期的に学習している。また、マニュアルを作成し、併設施設の看護師の指導の下、万が一事故が起きた場合には、それにのっとり対応できる様に学習している。	左記同様		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルがあり、日頃から職員同士で確認しあっている。また、年2回地元消防署の防災訓練及び指導を受けている。それ以外にも3ヶ月に一度の割合で防災訓練を行っている。	左記同様	非常用遠隔操作のついている火災報知設備があり、緊急時は各法人の職員の応援が受けられる。夜間を想定した避難訓練は実施しているが、日中の災害訓練の方が多。	昼間は職員が大勢いるが、夜勤は各ユニット1名ずつである。夜勤の職員が災害時に冷静に対応出来るように、夜間を想定した避難訓練を昼間に多く実施することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あくまでも、利用者は人生の先輩であるという事を念頭に置き、言葉遣い等に気を配り、その場の状況を見て言葉かけや対応をしている。	左記同様	個人情報の問題やプライバシー・倫理に関する事は法人全体の研修で年に1回学んでいる。居室に入る時は声掛けをして入る。また、トイレ誘導はさり気なく行うなど、日々の支援の中で、気を付けている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に意見や希望等表す事ができる雰囲気作りを心がけている。	左記同様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、一緒に過ごす時間を多く持ち、共に生活を楽しむ中で、希望に沿う様支援している。	左記同様		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容院を利用できる様にしている。また、外出時に家族と馴染みの理美容院に行く事もある。	左記同様		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理を行っている。また、職員も利用者と共に食事をとり楽しく過ごしている。	左記同様	食事の献立は利用者の意向を聞きながら職員が作成している。2ヶ月に1度ご当地メニューの提供をしている。準備や片付けは、利用者が自発的に行なっている。自分の食器を洗うのに、落ち着いて順番を待つ姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量等一人ひとり把握し記録している。	左記同様		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ等行い、口腔ケアを促し、一人ひとりに合わせた方法で支援している。	左記同様		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックして、さりげない声かけや誘導を行っている。	左記同様	本館ユニットは、各居室にトイレがついている。排泄が自立している利用者は多くいるが、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。声かけトイレ誘導の利用者は排泄パターンを掴んで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事前に、利用者全員がラジオ体操を行い、牛乳を飲む事を日課としており、食物繊維や乳酸菌を含む食品を多く摂り入れる工夫をしている。また、レクリエーションでも適度な運動を行う等して、便秘予防を図っている。	左記同様		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入れる様に配慮し、入浴を楽しめる事ができる支援をしている。	左記同様	日勤者のいる時間で希望した時に入浴している。拒否した時は声掛けの工夫をしている。バラの花を風呂に入れたところ、喜んで入った利用者がいた。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活が活動的になる様に働きかけ、安眠できる様支援している。眠れない時は温かい飲み物を提供したり、話し相手になる等して眠れる環境を作っている。	左記同様		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の作用や副作用、用法等を個人ファイルに綴り、全ての職員が情報を共有した上で服薬の支援をしている。また、必要に応じて提携病院の薬剤師に相談できる体制も整えている。	左記同様		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人及び家族から、これまでの生活歴を聞く等し把握した上で、過去の経験を活かして得意な事に力を発揮する事ができる様支援している。	左記同様		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の畑を見に行ったり、近所を散歩したり、買い物やドライブに出かける機会を設けている。また、利用者や家族の意見を取り入れながら、毎月遠足等を計画し、四季折々の季節を楽しみながら外出している。	左記同様	敷地内が広いので、天気の良い日は外に出るようにしている。100円ショップやコーヒーを飲みに行くなどの気分転換を図っている。家族は「もとの生活が大切」という事を理解し、利用者を外に連れ出す機会を作ってくれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、場合によっては家族との話し合いの上で、小銭を自己管理している利用者もいる。また、買い物の際には自分で支払いができる様に財布を渡し支援している。	左記同様		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と散歩がてらポストに手紙を出しに行ったり、公衆電話がある場所まで行き、本人自ら電話をしている。また、携帯電話を所持している利用者もいる。	左記同様		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度な明るさを保ち、テレビやBGMの音量も気にならない大きさに配慮している。	左記同様	リビングが広くゆったりとしている。新聞や週刊誌も置かれて生活感がある。トイレや浴室は清潔で使いやすい。玄関の外はすずきなどの自然な草花が生えていて、眼下の眺めもすばらしい。広い敷地内には農園もあり、敷地内だけで十分な散歩コースになる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室やベランダがある。また、外にはベンチが置いてあり、一人ひとりの時間を過ごしている。	左記同様		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品を持って来て頂き、本人及び家族と相談しながら、配置場所も考慮している。	左記同様	ベッド以外は個人持ちであり、利用者好みの部屋となっている。思い出の写真や自分の作品などが自由に飾ってある。また、本館ユニットは個室内にトイレと洗面台が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等に手すりを設置し、流し台や物干し等の高さも使い易い様に工夫している。	左記同様		